

見ている人も思わず力が入る大熱戦 ひいてひかれて第18回市民綱引き大会

2月1日、ホワイトキューブで「ひいてひかれて第18回市民綱引き大会」を開催しました。大会には、市内から26チーム約320人が出場。小学生、中学生、一般の部に分かれて熱戦を繰り広げました。

激戦の末、一般の部では福岡スポーツクラブが5連覇を達成したほか、中学生の部では白川中学校の生徒でつくる「月見酒」が2連覇。また、小学生の部では決勝リーグ進出3チームがすべて大鷹沢地区のチームとなり、大鷹沢小Aチームが2連覇を達成するなど、記録づくめの大会となりました。



▲必死の形相で綱を引く子どもたち

元気に100歳を迎えました 高城ましまさんに祝詞と松竹梅敬老祝金を贈呈



▲風間市長やご家族と一緒にご満悦の様子のみしまさん

1月28日に満100歳を迎えた高城ましまさんのもとを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り、ご長寿を祝福しました。ましまさんは丸森町のご出身で、結婚後は7人の子育てに奮闘の日々を送られました。現在、15人のお孫さんがいます。4男の光雄さんは、「戦後の苦しい生活の中で、きちんと私たち7人を育ててくれた、しっかり者です」と話してくれました。現在は、市内大手町の介護老人保健施設「清風」で穏やかに過ごしのましまさん。この日はご家族のほか、たくさんのお客さんの方が集まり、ご長寿を祝福しました。

成人おめでとう！ 自分の行動に責任を持って！ 白石市手をつなぐ育成会・成人を祝う会

1月18日、中央公民館で障害を持つ子どもとその家族でつくる白石市手をつなぐ育成会（蓬田明会長）が、成人を祝う会を開催し、新たな門出を祝いました。

新たに大人の仲間入りをしたのは、昭和63年生まれの3人。この日は、新年を祝う会と併せての開催です。出席したのは、高野将希さん、佐藤雄二さんの2人で、蓬田会長は「これからは自分の行動に責任を持ってください」とあいさつし、記念品を贈りました。新成人の2人は、「仕事を一生懸命頑張ります」とあいさつし、大人の自覚をのぞかせていました。



▲新成人の2人を囲んでの記念撮影

今年も地域みんなで仲良く楽しく！ 鷹巣冬まつり第5回「もちつき大会」



▲はっぴ会の皆さんともちつきをする子どもたち

1月18日、観福寺で鷹巣冬まつり第5回「もちつき大会」が開催されました。5回目を迎える祭りを主催したのは、鷹巣地区の住民有志でつくる自治会青年部「たかのすはっぴ会」（佐藤昭会長）で、住民同士の親ほくとお年寄り子どもたちのふれあいを目的に開催しています。

この日は、地域の子どもたちをはじめ、約120名が参加。もちつき体験のほかお手玉などの昔遊びも行われ、会場には地域の皆さんの楽しそうな笑い声が響いていました。このほか、鷹巣神楽保存会の皆さんによる演舞も披露され、参加者全員で地域の祭りを楽しみました。

目指すは未来のスター選手！ 第16回白石市生涯学習フェスティバル事業「ベガルタ仙台サッカー教室」



▲元気にボールを追い掛ける子どもたち

1月18日、本市と白石サッカー協会共催の「ベガルタ仙台サッカー教室」が、ホワイトキューブで開催されました。教室には、市内の小学生など120名ほどが参加。ベガルタ仙台指導員の指示の下、パスやドリブル、ミニゲームなどの基礎練習を行いました。教室終了後は、ベガルタ仙台のチームドクターで、大泉記念病院長の松本純先生の講演会も開催。白石サッカー協会の佐藤浩会長は「白石のレベルは確実に上がっています。選手の育成面で、この教室は大きな役割を果たしています」と話していました。子どもたちの今後の成長が期待されます。

寒さに負けず、元気に「はい！ 取ったぞ！」 白川小学校で第32回「動くジャンボカルタ取り大会」

1月30日、白川小学校（小山善史校長）で恒例の「動くジャンボカルタ取り大会」が開催されました。

この大会は、全校児童74人を縦割りで4つのグループに分け、学年ごとに絵札の背負い手・取り手に分かれて、絵札の下に取り付けられたひもを取ると得点するというもので、今回で32回目を迎えました。

今回のテーマは「食」。50音別の読み札は児童たちが考えたもので、絵札はそれに合わせて児童たちが2カ月かけて作ったものです。児童たちは寒さにも負けず、みんなで作ったジャンボカルタを追い掛けていました。



▲寒空の下、夢中で絵札を追い掛ける児童たち

今年もいっぱい、いいことがありますように！ 昔・むかしを伝える会「豆まき大会」



▲父母がふんした鬼に豆をぶつける園児たち

2月3日、すまいるひろばで、昔・むかしを伝える会（金原輝美代表）が主催する「豆まき大会」が開催されました。

節分に合わせて開催された「豆まき大会」には、ひかり幼稚園と東保育園、白川保育園から約200人の園児が参加。園児の父母が赤、緑、黄の鬼にふんして登場すると、新聞紙を丸めて作った「豆」を「鬼は外！ 福は内！」の掛け声と共に豆まきを行いました。豆まき後、「福の神」が現れると、園児たちは「いいことがありますように」と、小さな手を合わせていました。

貴重な学習の機会に目を輝かせて 航空自衛隊航空中央音楽隊クリニック

2月8日、東中学校で航空自衛隊航空中央音楽隊の皆さんによる管楽器や打楽器などの演奏指導教室が行われました。指導教室には、市内の中・高校生や一般の方など約70名が参加。参加者は楽器別に分かれ、個別指導に近い状態でレッスンを受けました。「専門家の指導は、またとない貴重な機会。しっかり勉強したい」と、目を輝かせて話した参加者。同音楽隊の朽方聡さんは「こういった教室の開催を通じて、地元の音楽レベルの向上に寄与できればと思います。今後も、地元の方と触れ合う機会を大切にしていきたいです」と話していました。



▲トランペットの操作方法を丁寧に教える音楽隊員